

ようになった。その人は「吐く煙で、副流煙でうつるかもしれないから、みんながいなくなる」と言っていた。

- ・保険は断られた。生命保険もそうだし、いろいろ断られた。理由はC型肝炎だから。治ったのにダメだった。その時に「病院の先生の完治証明を持ってきましようか」と言ったが、「いえ、それもダメです」と言われた。それは仕方がないが、差別だと思う。完全に差別です。他の病気なら入れるのに、どうしてC型肝炎、B型肝炎はダメなのか。治ってどうしてダメなのかって。
- ・家内もC型と分かったとき、嫁の親に「うちの娘をこんな身体にして」と散々言われた。それで親から「連れて帰る」と言われたが、嫁は「帰らない」と言った。
- ・隣から近所に知れ渡って、それからちょっと嫌な目で見られて。最近はそうでもないけど。それまでは旅行の土産など近所であげたりもらったりしていたんだけど、退院後に夫婦で旅行に行き、土産を持って行ったら、「いらぬ」と言われた。「どうして？」と聞いたら、「うちは食べないから」と言われたが、そんなこと今まで言われたことがなかった。考え過ぎかも知れないが、そんなことがあって、なんか嫌な思いをした。

3 2 女性 50代 専業主婦 B型

- ・医療機関で以前、B型肝炎の私にだけ手袋を使っている時期があった。今は全員に手袋を使っている。「B型肝炎だけがうつるのか、他の人も私にうつることはないの?」、「私の時だけ手袋をするの?」と思った。その時は感覚を鈍らせてあまり思わないようにしていたが、今思い出すと悔しい。B型肝炎の者だけに手袋をするというのは、おかしいんじゃないかと今は思う。その当時は「しょうがない、看護師さんにうつしたら可哀想、申し訳ない」というのがあった。もっとみんなに知らせてほしいし、もっと理解してもらえるようにしてもらいたい。「好きでB型肝炎になったのではない」というのを分かってほしい。
- ・本当に無知という一言につきると思う。2人目のお産の時に。病院で授乳の時、パイプ椅子で物置みたいところで授乳させられた。なんで私だけこういう所でなのかと思っていた。ゆったりした椅子で、授乳室はちゃんとあって、みんなそこで授乳していた。新生児担当の看護師が話をしている、「B型肝炎の患者の子どもがいると大変よね」、「まったく、お母さんの母乳の出が悪いからミルクを追加するのに大変よ。時間がかかってしょうがないわ」、「たまらんねん、こんなの」とか言っていた。私の目の前で。「あなたたちは私に聞かせたいのか」と思った。その後、突然救急車で運ばれてきた人がお産して、授乳するのに感染症があったらだめだから私の隣の席で授乳させた。B型肝炎の患者の子どもはそれ以外のものに感染してもいいのか、ということになる。その時は「何なの?」と思ったが、自分の子どもを守る、それだけしか思っていなくて。2番目のお産の時は、既にワクチンをするようになっている時代だから、医療関係者ともあろう者にあるまじきことだと思うけど、おそらくすごく中途半端な知識だったと思う。うちはB型肝炎というだけでほかに感染症は何も無かった。全く1度も産婦人科を受診したことが無い人が産んだ赤ちゃんを私の横に座らせて、「2人で仲良く授乳してください」というような感じで、物置みたいところのパイプ椅子で。この辺にいっぱいガチャガチャと物があって倒れてこないかなというところで授乳させられた。それは、やっぱりおかしいと思う。それはあの人たちの無知。
- ・でもそこも、今は変わっている。改善されていて、普通に順番を呼ばれてびっくりした。お産の時は一番後回しだった。「待つて、待つて、一番最後に、うつったら困るからね」と言われて。「しょうがない、しょうがない、うつたら大変、大変」と思って、しょうがないと思っていて。それが2年前ぐらいに子宮がん検診で、その時も出血が続いていたんですけど、先生は普通にされた。「先生、私はB型肝炎ですよ、ウイルスありますよ、順番は後に

しなくていいんですか？しかも出血してるんですよ、いいんですか？」と言ったら、「何か問題はありますか？」と言った。「私の方は問題は無いけど、先生の方が問題があるんじゃないですか？」と言ったら、「いや、無いです」と言われた。同じ病院で。やっぱり知識があると無いとでは違うんです。それだけ病院の先生の間では、認知度ははるかに違う。だから無知はだめ、というのがある。今の時代に産んでいたら、あんな思いはせずにひよっとしたら済んだかなと思う。多分私がお産した当時は、使い捨てにしていなかったものが多分あると思う。それを全て使い捨てにしていると思う。使い捨てにして、感染予防。しかもそれを簡単にできるように。だから知らせてほしい。

もっと知ってもらいたい。正しいことを知らせてほしい。週刊誌にいい加減なことは書かれたくない。

- その後も息子の友達のお母さんなんかでも、息子の友達が怪我をして学校の先生に外科に連れて行ってもらったらしいんだけど、「あの子、B型肝炎だったんだって。大変よ、あの子とは付き合えないよね」と言っていたことがあって。「何で？」と聞いたら、「いつうつるかわかれへんやんか」と言われて、「あーそうか、例えば手を切ったりしてちょっと付くとか、そういうことを思っているのかな」と思って。「あー、そうやったのか」と言ったんだけど。その人も私が肝臓が悪いということは言っていて、「お酒も飲まないのになんで肝臓が悪いの？」と言われたんだけど、「何ででしょうね」と言って、それで終わりにしたんだけど。でも私は、今回のこのインタビューがあるまで、それを偏見だと実際のところは意識していなかった。本当に鈍感に、鈍感にしていたから。そうでないと、いちいち気にしていたら本当にやっていけなかった。
- 親戚にC型が2人いる。円卓で一緒に行ってくれなかったというのは聞いている。C型でもB型でもかかわらず一緒だと思う。だから鍋料理の時は、私は取り箸でしか取らないとか、それは徹底している。今でも絶対にそう。家でもそう。よそでもそう。もう徹底している。それを徹底すると、外に出た時に苦痛ではなくなるんですよ。だから鈍く鈍くするためには、普段からそれに慣れておかないと。それが当たり前になっていたら苦痛にならないから。外に出た時だけ、お友達と食事をする時だけ、私は何が何でも鍋料理なのに取り箸とかというのだったら苦痛に感じるかもしれないけど、普段からやっていたら全然苦痛ではないから「楽しいね」というのが言えるから。別に私のことを分かってくれる友達であってもそうしている。でもその親戚は拒否されたと言っていた。もう無知としか言いようがない。無知による差別。
- 友達に話そうとしたら、話す前に「入院していたの？何が悪かったの？」と言われて、「肝臓が悪かった」と言うと、「あなた、まさかB型肝炎なんていうじゃないでしょうね」、「B型肝炎と言ったら、私友達をやめる」と言われて、「違う、違う」と言って、言えなかった。その当時「あんな病気だったら友達として付き合いなんてできないでしょう」とその友達には言われた。すぐ感染すると思っていたんだと思う。おそらく空気感染するとも思っていたんだよね。でもその人に、事細かく「こうしたら感染するのよ」と教えるのも、ちょっと虚しいなと思って。友達をやめるんだったらやめてくれたらいいし、と思っていた。説明する気も無いし、元気な人はそれでいいでしょう、と思って特に何も言わずに。
- 付き合いでも、相手はもっと早く言って欲しいのだけれども、言うのが遅いから去っていきみたい。自分の病気が原因というか、自分の中で踏ん切りがつかないのが多分原因だろう。
- 主人の実家が農業をやっている、肝臓が悪い身の私にとってはその手伝いが結構過激だった。田舎に行って農作業をして帰ると、肝機能が必ず悪くなって、その繰り返しで。でもこういうのは差別とか偏見とかと思わないようにしていたが、「肝臓なんて無くなっても生きていける」と主人の親に言われた。「お前が怠け者だから」と言われた。だからできるだけ気持ちを鈍感にして、何を言われても、何をされても。そういうことに敏感であつたら今まで

やってこられなかった。気持ちを押し殺してというか、本当に鈍く、鈍くしていた。肝臓が悪いというのは自分でどうしようもできないところがある。「お前の性格が悪い」、「お前の生活の仕方が悪い」と言われて、それを一つ一つ気にしていたら生活なんてできない。だからこの人は「何も分かっていないんだ」、「なんやったらうつしたろか」とかと思うようにして。作業は田植えから始まって。稲を作るところから始まって。稲をケースに入れて稲の苗を作るんですけど、それを鍬でガーッとおこすとか重労働。あとジャガイモ、玉葱とかいろいろ畑もやっていたり。それとか秋になったら刈り入れがあるし。冬は冬で。それが夜なべして当たり前で。田舎だからなのか、農家だからなのか、私が鈍くさかったのか、夜寝るのが2時ぐらいだった。言われた仕事を全部しようと思ったら2時になってしまう。それで朝起きるのが5時。寝ているのが3時間。そりゃ肝臓も悪くなるでしょう、と帰ってから自分で思い込んでいて。入院した時に、先生にそれをちょっと言ったら、「ドクターストップをかけてあげる」と言ってくれて。それで「先生に言われたと言いなさい」と言ってくれた。強ミノをやっている時で退院してから3年ぐらい経ってからのかな。「どうしてこれだけ通っているのに悪くなるんだらうね」と先生が言われたので、「いや先生、実はこうなんです」と言ったら、「それは悪くなるはずだから、もう田舎に帰るのはやめなさい」と言われた。それで夫に「先生に田舎に帰るのはやめなさいと言われた」と言ったら、夫はブツブツ怒っていたが、でも「もういいや」と思って。そこでもまた「サボリ」とか「肝臓なんてなくても生きられる」とまた散々いろいろ言われたが、「もういいや」と思って。親戚に喘息の人とかいろいろいたけど、「あれは喘息だからしんどいんだ」とか。見えるでしょう、咳をしているから。でも私は「すごく元気そう。顔色もいい」と言われて。「どこが悪いの？」って近所の人にもよく言われた。主人の母の膵臓が悪くなったが「痛い、痛い、痛い」と言っていて、「おまえが付き添いに行け」と言われて行った。実はその時私も肝機能が悪かった。手術した人は「痛い、痛い」と言うから本当に可哀想となるけど。そういうことがあって「これは無知なんだ、諦めよう」と思うしかなくて。そうでないと主人と一緒に暮らしていけないので。私は子どもと離れるのは嫌だったから「気にしなければいい」、「鈍感になろう」と。ただそれだけ。子どもたちだけには事情を説明して「あなたたちは、こうこうこうしているから大丈夫なんだよ」ということを、中学生ぐらいになってから教えたので。私が入院したりもしているんで、子どもたちはいろいろ手伝ってくれたり、「お母さん、もうやめとき、やめとき」と言ってくれていたんだけど。やっぱり分からない人には、いくら言っても分からない。

3 3 男性 40代 会社員 B型

- ・その人が勤めている歯医者に行っていたが、自分がB型とわかった途端いつも診てもらう人が替わったことはあった。何で替わったかは分からないけど、もしかしてその話が伝わって、前やっていた人が嫌だと言って誰か貧乏くじを引いた人が僕の担当になったんだらうなど、推測だけどそう思った。彼女には「そういう病気は事前に診察受ける前に言わないとアカン」と言われた。感染する可能性があるんで、そう言われたらそうなのかなとは思う。
- ・前の会社の同僚などに「風俗で遊びまくってたんじゃないか」とか、「母親がそうだから、母親からうつったんだらう」とか直接言われた。特に反論もしないし、言われたことを淡々と受け止めている。どういう対応したらいいのかよくわからないので。今の会社の人は知らないと思う。
- ・うつると聞いたので結婚しようと思っている人にそのことを言った。そうしたらその人は歯科衛生士の人だったけど、結構そういう知識があったみたいで態度がコロッと変わった。付きあって半年くらいだった。「そういう人とは付き合えない」という感じだった。その時はショックだったけど、逆の立場ならそんなのもやっぱりあるのかなと思って、反面しようが

ないかなと諦めの気持ちもあった。結局別れた。

3 4 男性 30代 会社員 B型

- ・歯科医で、病気とか、飲んでる薬とかも全部載っている手帳を持って、最初の間診票に書くが、今のところ私が行った所で診療拒否経験はない。S L Eで血が固まらないように、小児用バファリンを飲んでるが「血が止まりにくいね」と歯科医が言いながら治療する。
- ・肝炎がダメみたいなことをいって保険には入れないと言われた。保険会社が増えたおかげで、今は入っている。死亡は入れないけれど。
- ・付き合っても、相手はもっと早く言って欲しいのだけれども、言うのが遅いから去っていきみたい。自分の病気が原因というか、自分の中で踏ん切りがつかないのが多分原因だろう。

3 5 男性 40代 会社員 B型

- ・大学病院に入院している時、入院時に全部治そうと思って、親知らずが生えてきたので抜いてもらおうと思って、口腔外科に申し込んだ。B型は別室に分けないといけなかったけれど、そこに入る時に、みながいる所で説明しなくてもいいのに、みなに聞こえるように「あなたはB型」とはっきり言われ、「こっちではないです。別の所で診ます」と案内されているところを見られると「あの人、何の病気？」となる。配慮をして欲しかった。少し嫌な思いはした。別室に移ることに抵抗はない。それは仕方がない。血小板の数も減って血液が止まりにくい。入院中はインターフェロンをして、思いっきり減る。親知らずだから血が止まらないかもしれないから、歯科医の格好ではなく手術するような格好だった。症状を聞いていたので仕方がないけれど、そこに何回か行かなくてはいけなくて、行くと必ず「B型の方はこちらで」と言われた。それは看護師だと思う。その点は少し配慮してほしい。それで病院に訴えたり何か言おうとは思わなかった。その女性に3回目くらいには「こんな所で言わなくてもいいじゃないですか」と言ったけれど、何も答えはなく黙ったままだった。
- ・大学病院だから、肝炎の患者も他の感染症の方もたくさんいるはずなのに、逆にそれで向こうは当たり前のように、たくさんいるからどうでもいいような感じになって、名前は言わないけれど「何とかの患者が来て」とか、日頃飛び交っているのかもしれない。病名を言うのは慣れきっているのかなと思う。それは止めてほしい。プライバシー。一般の人も、いろんな病気の人がいるから。口腔外科だから、たいした病気ではない人が多いし、一般外来が多い所だったから、そういう配慮はしてほしい。
- ・その後、大学病院の口腔外科は行かないけど、地元の歯医者には行く。地元の歯医者は大丈夫。B型と言って「ここは分けなくていいのか」と聞いたら、「そんなことはないけれど」と、宇宙服みたいのは着ない。衛生状態が良ければ他の患者に感染することもないと思う。
- ・病院にかかる時に自分がB型肝炎だと言うことに今は抵抗はない。色々な治療で何かあった時に「それは先に言っておいて欲しかった」と言われるのが嫌なので、関係なくてもとりあえずは言うしておく。断られたら断られたでいいかなと思う。途中で分かって、もう来ないでくれと言われる方が辛い。それなら最初に分かっていた方がいい。絶対に言った方がいいと思う。途中や後で断られるのが一番辛いから。そこから態度が変わられても困る。
- ・歯科は入院直後に1回だけ診療拒否はあった。大学病院から紹介してもらったのに、「肝炎の方はダメです」と言われた。そこは行き慣れていない歯科で、紹介されていったのという感じ。違う所に行ったら別に大丈夫だった。
- ・B型肝炎であることで会社から不利益を受けたことは会社ではなかった。当時はC型の方もいて、直接うつるわけではないので、普通に接しても別に何ともないと言っていた。普通に話をするだけでは絶対にうつらない。肝炎に関して会社は理解してくれ、恵まれていたと思う。会社では偏見の目で見られることはなく、嫌な思いをすることはなかった。

- ・それまで入っていた保険会社とは別の会社の入院給付付きの新しい生命保険が出たので、切り替える手続きをした時、入院しているし、B型も持っていると言った。既往歴5年ギリギリくらいだったけれど、ほぼ切り替えられると聞いていたが、突然B型は10年くらいは無理ですと言われた。規定を見たら、5年以前の既往歴は見ないと書いてあって、ちょうど5年を超えたばかりだったけれど、結局切り替えられなかった。その後2年後に切り替えることができた。不思議に思ったけれど、切り替えられて、今に至っている。
- ・入院後2、3年後の10年くらい前、父の役所の関係での知り合いの娘とお見合いの後で、向こうの両親に断られたことが1回だけある。本人同士では別に隠しても仕方がないので自分はB型だと話した。帰ってからすぐに言ったのか、向こうの両親がすごい剣幕で「そんな大事なことは、お見合いの場で言うべきだ」と言われた。頭ごなしに言われたのでカチンと来た。面倒くさいと思った。B型肝炎はそういう病気ではないと説明しようとは思わなかった。頭ごなしに怒られるような感じだった。
- ・B型肝炎だと話した時の相手の女性の反応は、今は抗体もできているし、普通に生活していく上では問題ないので、隠されていた方が辛いから、「言ってくれてありがとう」とは言っていた。
- ・今も独身なのは、その件が尾を引いていることはない。その後に仕事を変わって、本当に遊ぶ機会もないくらい仕事に没頭し、父も定年を迎えて、見合いの話も無い。同級生の仲間から紹介しようかということもあったけれどどうしても時間が取れなくてズルズルと今まで来ている。
- ・見合いではないけど、普通に付き合っている時に向こうの両親が「健康ではないのか」と言うので、B型はすぐに肝硬変で死ぬ重い病気でもなければ、普通の人と同じ生活ができると説明をしたことはあるが、「仕事がそんなに忙しいとは思わなかった」と言われて、構ってあげられなくて、そのまま別れた。B型だからではない。

36 男性 60代 無職 C型

- ・病院でよく顔を見て人とは入院した時などに話したりする。嫌だったのは、私と一緒に手術したC型肝炎の人が死んだことで、同じ手術をして、1年足らずで死んだ人など病院とか友達5人程いた。60代。医師に、僕は吐血して逝くのか、下血で逝くのかどちらなのかと聞いたら、あなたの場合は肝不全で死ぬと言われた。
- ・歯科で、断られはしなかった。ただゴム手袋はしていた。他の人にはその頃はしていなかったはず。
- ・生命保険は、C型肝炎で肝臓癌の場合は入れないと言われた。保険にはそれまでに入ったものがあるが、もう●●歳だから今まで入っていた小さいのが1つ残っているだけ。だから入院したらそれを使う。入院1日に5千円くらい出る。癌のたびに必ず治療で入院する。気の毒だと思う。近所のJAに入っているけれど、保険証の後ろに付箋みたいなものをいっぱい貼っている。出すのが気の毒だけれど、こちらも収入がないので。
- ・町内会で、ハッキリ私の顔を見て言う訳ではない。酒が原因ではないのに、あの人は肝臓癌で酒の飲み過ぎだと、そう耳にした。C型肝炎もみんな知っている。知っていることで態度が変わったことはない。最初はどうしてもみんな警戒心と言ったらおかしいけれど、そのような態度だった。結局、肝炎がうつたらいけないと思うわけだ。具体的にそういうことを言われたことはなく、何となく感じた。
- ・10年くらい前からか、テレビや紙面などでC型肝炎の色々なことが出た。そうするとやはり知ってる人と話したらコップなど一緒に使ったらうつるのかという、少し抵抗感があるような顔をされた。缶ビールにしる何にしる。友達でも知り合いでも最初に集まった時には抵抗感があった。向こうは口では言わないが、うつるのではないかと。それは顔色見ればハッ

キリ分かった。C型と分かってからも一緒に飲んだり、食べたり。それは、薬剤の裁判でC型肝炎やウイルス肝炎と騒ぎ出してから。それまではあまり分からなかった。私の思い違いかも知れないけれど、一緒に飲み食いしたらうつるのではないかという先入観か、顔色を見た時にはやはり少し何か抵抗があるような感じがした。直接は言われていない。

37 女性 60代 調理師 C型

- ・2006年の年末から2007年1月頃に知人に地元の歯科医を紹介してもらった。私は痛みがりなので、優しい歯科医を紹介してもらった。最初に問診票にC型肝炎であることと飲んでいる薬を正直に書いた。今までどの歯科医に行っても正直に書いていた。その歯科医に行つて何度目かの治療の時に、3台治療台があるうちの真ん中の治療台に座らされた。歯科医は奥の人を治療していたが、右にいた女性の患者の視線を感じた。ジロジロと私を見ていた。「嫌だな」と思った。私の順番が来て歯科医がシートを倒した。倒された時に周りを見たら、治療台の器具やライト、うがいする機械など全てラップが巻かれていた。ラップを巻かれるようなことは初めてだった。それを見て、隣の人は「何故ラップがしてあるのだろうか」と思って私をジロジロ見ていたのだと分かった。後から思うと、いつも私の番のときに、呼ばれるまで時間がかかっていたが「なるほど、ラップで巻いていたのだな」と思った。「自分の病気を正直に書かない人はどうなのか」という気持ちになった。
- ・治療の間、涙が止まらなかった。歯科医は治療が辛いから泣いていると思ったようで、「やめましょうか」「痛いですか」と聞いてきたけれど、そうではなく、「この歯科医は私のような患者には来てもらいたくない、面倒な患者なのだ」と思って本当に辛かった。歯科医には余計に辛くなりそうで何も言わなかった。
- ・歯科医からは何の説明もなかった。正直に書いただけなのに、「これから歯科医に行つてもC型肝炎であることは絶対に書くまい」と思った。その歯科医にはそれ以降行っていない。
- ・その後新しく歯科医に行つた時には、問診票に告知はしている。人として告知しないわけにはいかない。今、行っている歯科医は薬のことも書いているし、C型肝炎のことも書いた。そこは個室になっているし、素晴らしい歯科医なので夫も私もそこに通っている。
- ・事前に説明があつたら、全然違うと思う。
- ・私のような患者は、夫婦間でもうつることは本当に少ないと短い診療時間の中で医師から説明を受けたが、医療関係者は肝炎に関して勉強してないのかと痛切に思った。もっとウイルス性肝炎のことを正しく教えるところはないのかと思う。
- ・保険は断られた。「申し訳ありませんがお引き受けできない」と言われた。前に小さい保険に入っていた。更新は何もできない。違う保険に入ろうとして申し込んだが、だめだった。理由の説明はない。文書で「申し訳ございませんが、引き受けることはできません」と言われた。告知するところの「肝炎」に丸をした。
- ・はっきりとした差別だと思う。保険料を高く払えば入れる保険があるらしいが、それも差別だと思う。他の病気とどう違うのか聞きたい。高脂血症やくも膜下出血とどう違うのか。肝臓は長い間かけて悪くなると聞くが、どうして保険に入れないか聞きたい。
- ・●●市の祭りで、公園の中でテントがいくつかあって、露店で買ったうどんなどをテントの中で食べたりする。そこで1度目にした光景だが、あるおじいさんが孫に焼きそばをあげようとしたら、おじいさんの息子と思われるお父さんに「肝炎がうつる。箸を替えろ」と言われて、しぶしぶ箸を替えている光景を見たことがある。家族でそういう人もいるのだと思った。

38 女性 30代 専業主婦 B型・C型

- ・歯科医で、病気とか、飲んでいる薬とかも全部載っている手帳を持って、最初の問診票に書

くが、今のところ私が行った所で診療拒否経験はない。SLEで血が固まらないように、小児用バファリンを飲んでいるが「血が止まりにくいね」と歯科医が言いながら治療する。

- ・肝炎がダメみたいなことをいって、保険には入れないと言われた。保険会社が増えたおかげで、今は入っている。死亡は入れないけれど。

39 女性 60代 専業主婦 B型

- ・医療費を線引きしているのも差別。インターフェロンか核酸アナログをしている人しか救わない。あとの人は無視。たとえ100円でも500円でも千円でもいいので、すべての患者が被害者だということを国が認めて欲しい。

何らかのかたちで認められて、憂さを晴らして死にたい。いくら署名をしても自分には恩恵がない。しても無駄なのかという虚しさが残る。患者の中で差別がある。

- ・歯科医では差別を受けた。肝炎と言っただけで口の中を触らない。痛いと言ったら、「口を開けてみなさい」と棒を入れられた。今から見れば歯間ブラシだったと思うが、あの頃は見たこともないもので、ここの歯の間を自分でしなさいと言って終わった。後で、これは差別だと思った。触るとうつるから、自分でしなさいと言われた。お金は取られなかった。平成元年のこと。
- ・4月か5月に患者会の総会で、医師会や市長さん、歯科医師会、薬剤師会に後援と署名のお願いをしに行ったとき、歯科医師会の会長に、「あなた達も大変だろうけれど私達も被害者だ」と言われてびっくりした。「ああ、こういう考えで歯科医師は患者を嫌がって差別するのだろう」と思って本当に残念だった。4、5年ぐらい前。
- ・保険に入れないのは差別だと思う。これから入院するかもしれないのは皆同じ。この病気のために税金だけではなくて毎月高いお金を払っている。結局、お金がいる。この病気は医原病で、医師から何らかのかたちでうつされた。予防接種だけではなく、原因がわからない人はおそらく、病院での輸血や針を換えなかったことでうつった。ここの病院の下の相談室で、母子感染も原因の1つだと言う。その母子感染も、もとを正せばどこかの病院で感染している。結局、国がこのような危険性があるというWHOの警告に対処しなかったためにこれだけ広がった。誰のせいで広がったのかを考えると、やはりこれは国による差別というかいじめだと思う。

40 女性 60代 調理師 B型

- ・息子は看護師として働いている。小学校でかかったけれども、すぐに治癒したので、ずっと健康状態は良好だった。看護師になると言ったから、血液検査されたら絶対に妨害されるし、どんな法人でも入れるはずはないと言った。健康でも元のS抗原はすぐに検出されるからと重々言って聞かせたが、僕はなるんと言って入学してすぐに血液検査をしたら抗原が出て、そうしたらいろいろ学校が言い出した。B型肝炎だということを知らなかったのかと聞かれたが、息子はどの本にも肝炎患者がこういう学校に入ったらいけないとは書いていないと言ったらしい。研修には行かせられないとか、言われたようだが勉強はよく励んで成績が良かった。
- ・学校では健康診断のカルテが誰でも見られるような所に置いてあって、みんな分かっていたので、病院の先生が息子に「自分の持っている病気に対して深く勉強して、みんなの前で講義しろ」と言ったそう。僕はしてもいいですが、僕がウイルスを持っていることを、みんなの前で公表した時にどういう反響が起こるかについて、先生が責任を取ってもらえますか」「カルテの開示や人のプライバシーに関して、情け容赦がないですね」と言ったら、息子を看護学校の教師にしたらという展開になったらしいが、結局、学校は他の生徒と同様に研修にも行かせてもらい、今は看護師になって2年目。肝炎患者には看護師は難しいという、

ちょっとわからない。

感染症ということがわかったときに友達に説明した。普通に食べたり飲んだりは問題ないけれど、もし怪我をしたときでも触らないで、それは絶対駄目だからと話したら、「あーそうなんだ、わかった」と。年間に何回か遊びに行ったりするが特に何もない。高校生のころから周りの友達に説明してきた。僕の場合は偏見もなかった。学校の先生に何か言われたことも嫌な思いをしたこともなかった。肝炎であることを人に話すことに抵抗はない。

4 3 男性 50代 会社員 B型

- ・歯科医に行ったときは、事前に、自分の方からB型肝炎なので治療した器具は煮沸して使わないように言っているが、診療を拒否されたことはない。
- ・大学に入って前の会社に就職する前、B型肝炎であることが分かる前に生命保険に入り、現在まで継続してる。生命保険関係の仕事をしている友人から「生命保険を考え直してみないか」と言われ、「B型肝炎だけどいいの？」と言うと、「肝炎ではちょっと」と言って断られる。
- ・これまで肝炎で3回入院し、保険金はもらっているが、保険会社からは「次に入院したら最後だ」と言われている。B型肝炎のキャリアなので保険金の支払い限度があるということらしい。
- ・大学時代の女性の後輩から、「彼氏からB型肝炎をうつされて劇症肝炎になって入院したため、期末試験を受験できず留年した」という相談を受けた際、「実は自分もB型肝炎だが、女性とも付き合ってきた」と言ったら、「えっ」と言われ、ものすごいものを見るような目で見られた。「それは絶対にやるべきじゃない」「現に私は留年することになった」と言われた。

4 4 女性 40代 専業主婦 C型

- ・自宅と出張レッスンでピアノ教師をしていたが、「なんで先生は入院したの」と聞かれて答えてもやめていく生徒はいなかったし、父兄の方も「それは大変ですね」で終わっている。
- ・自分では経験がないが、芸能人（B型肝炎）がひどい差別を受けたと言っているのをテレビで見たことがある。正しい知識を持っていたらそんなに簡単にうつるものではないことが分かるのに、正しい知識がないためにそういう差別を受けるのが怖いと思う。
- ・肝炎患者の「間」で差別があるかどうかは、自分は患者同士の繋がりがいいから分からないし、そういう話を聞いたこともない。自分の母親はC型肝炎であることを隠そうとしているが、母はかつて教師をしており、住んでいるのが田舎で、周囲から「先生」と言われてきたので、昔の栄光に浸っているからだと思う。
- ・C型肝炎が分かる前20歳を過ぎたころ生命保険に加入し、その後更新して継続してきた。今年別の保険会社に変えたが、C型肝炎であることを前提に、終身ではなく、定期の保険だが支障はなかった。

4 5 男性 30代 技術職(建築土木) B型

- ・B型肝炎であることが分かって前の会社をやめた後、公務員試験で●●の試験を受けた。そのとき、検査の数値が高かったので病院に行って診断書をもらってくるように言われ、自分が肝炎であることが分かった病院に行って診断書の作成を依頼した。医師から「書くけど肝炎じゃないとは書けないから」「いい方向に向かっていると書いてもいいけど、肝炎じゃないとは言えないから」と言われ、診断書を書いてもらって提出したが、結果は不合格だった。おそらくB型肝炎と書いてあったのだと思う。成績も余り良くなかったみたいなので分からないが、それが原因の一つ、すべてじゃないかなという気がする。

- ・就職活動をしていて、「体調はどうですか」、「体の調子はどうですか」と聞かれることが多かったかなという感じがする。
- ・今の会社に就職するときは、体調とかを聞かれることはなかった。現在会社の中において、差別に対して寛大な会社というのではなく、無知というかそういう会社だと思う。日常生活で差別を感じることはなく、会社でも普通に接してくれているが、肝炎を知らない、知識がないんだろうなという感じである。
- ・現在の会社に入ってから転職活動をしていたことがあったが、「体調はどうですか」と聞かれたので、後で言われるのがいやだったので「自分はB型肝炎で薬を飲んでいる」と言ったら、面接官の1人が「私も飲んでいるんです」と言ってくれ、オープンな感じで好意的に感じられたことがあった。肝炎に対して理解のある会社もあった。

4 6 男性 60代 無職 C型

- ・嫌な思いをしたり、差別を受けたということはない。人が離れていったということもない。今は飲み友達とはちょっと距離をおいているが、これは自分の方から距離を置いているだけ。
- ・自分はC型肝炎が分かる前に終身の生命保険に入っていたが、C型肝炎が分かった後、先進医療の特約を付けるときも、「治ったから」と言ったら、保険会社は何も言わず特約を追加した。
- ・友達関係でも特に変化はないし、勤務先で部署を変えられたりしたこともない。

